

2025年度 情報学部 小論文試験についての全体講評

1. 出題の意図

情報学部の小論文試験は、アドミッション・ポリシーにおいて「幅広い教養と基礎学力を身に付けていること」および「情報技術のあり方について自ら思考し表現共有する力を有すること」について評価することを主たる目的とした設問から構成されています。このため、社会で利活用されている情報技術に関する文章やデータなどを題材とした問題を出題し、題材の内容を理解するための知識や理解力に加えて、理解した内容に基づいて考察する思考力と、設問に沿って論理的にかつ過不足なく思考した内容を記述する表現力を問う出題になっています。

2. 採点・評価のポイント

いずれの選抜区分でも、小論文の出題は、それぞれの題材に基づいた2つの大問（問題1と問題2）から構成されています。問題ごとの評価のポイントは以下の通りです。

問題1

問題1では、主に題材の内容に関する知識や理解力が問われ、理解したことを過不足なく述べることが期待される2問から構成されています。

問1では題材の文章が述べている内容や、技術と社会との関わりなどを的確に把握する理解力が問われました。また、問2では主に理解に基づいて思考する力が問われました。解答の論述においては、設問の前提となる題材に基づくことが重視されています。題材に関する知識あるいは理解に基づく思考の内容を適切な文章として表現することが必要でした。とくに、設問に対応する箇所を適切に抽出できる理解力と論点を明確にして思考する力が重視され、問われていることがらについて、適切に理解しているか、提示されたことについて考察を行っているか、その内容を指定の文字数の範囲で簡潔に記述できているかが評価のポイントでした。

問題2

問題2においては、問われたことについての自分自身の考えを記述することが求められています。その記述の明快さと論理展開の適切さが評価のポイントです。題材として提示された記事の内容を理解し、その理解に基づいて設問に沿って考察し、考察した内容を適切に述べることを期待されています。一部の選抜区分に、表を読みとって解答する設問がありました。そこでも、題材として提示されたデータが示している状況を理解できることが求められました。

問題2においては、計算を必要とする箇所を除いて、唯一の明らかな正解は存在しません。しかし、題材に含まれない内容や、題材において否定されている事実に立脚した論述は適切ではありません。また、設問で指定されていることから逸脱した論理の展開や事例の提示なども、適切な解答ではありません。問の前提となる仮定や事実を把握すること、そこから自分自身で考えて結論を導くことが重要です。評価においては、導かれた結論の良し悪しではなく、なぜそのように考察したのかについて、題材と設問に立脚しつつ簡潔かつ明快に述べているかを重視し、現実的な観点からの考察であるかなどの要素も踏まえた評価がなされました。

福知山公立大学入試委員会

2025年3月31日